

目 次

ヘンリー・オースティン・レイヤードの文化外交と国家のための文化遺産収集	松本 佐保	1
フランス第二帝政の対日外交に関する基礎研究	野村 啓介	5
カーライ・ベーニがパリに派遣した男ヘンリ・モーゼル —二十世紀初頭におけるボスニア=ヘルツェゴヴィナの統一的国家イメージの形成—	レッシュ・イムレ	12
オーストリア=ハンガリー代理公使の見た明治日本 —ハインリヒ・クーデンホーフの報告書を中心に—	桑名 映子	16
皇帝と大統領のあいだで —外交官シュテルンブルクとドイツの世界政策—	飯田 洋介	21
副王になった外交官 —インド総督ハーディング男爵とムスリムへの宥和—	君塚 直隆	26
ゾルフの植民地構想	中村 綾乃	30
明治末期にウィーンに駐在した日本外交官たち —奥田竹松と信夫淳平—	島田 昌幸	35
映画と外交—新外交の視点から—	加藤 厚子・千葉 功	41
帝国をめぐる「文化外交」 —伊英関係におけるマルタ言語問題—	石田 憲	44
駐在武官の異文化接触 —アレクサンダー・フォン・ファルケンハウゼンと東アジア—	田嶋 信雄	45
1921-1960年における英国の対日文化外交	アントニー・ベスト	51
マリアンヌを売りこむ —1945～1969年のフランス文化外交と近代外交の変容—	アンソニー・アダムスウェイト	54
西独対外文化政策における「第三世界諸国とのパートナーシップ」 —「10のテーゼ」策定とハム=ブリュッヒャー政務次官の役割—	川村 陶子	57
戦後日本の国際文化交流・文化外交	福島 安紀子	62
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 —20世紀オーストリアの記憶の場所—	オリヴァー・ラートコルプ	66